

広げよう★ コミュニティの輪

★ 彩の国コミュニティ協議会 ★

No.43
2014.10

共助 日本一の共助県を目指して ～「共助の取組マッチング事業」～

福祉や環境、まちづくりなど地域の課題解決のためには、NPOや自治会、コミュニティ協議会などによる地域の絆を活かした共助の取組が欠かせません。埼玉県では、こうした団体と、スキルや人生経験を活かして社会貢献したい方（専門家）をつなぎ、さらに、活動資金もつなぐことで共助の取組を支援しています。

共助仕掛人

NPOや自治会、コミ協などと専門家や活動資金をつなぐコーディネーターとなるのが「共助仕掛人」。県と和光市、熊谷市、川口市に設置しています。

専門家

「困っている人を助けたい。」誰もが持っている「人の役に立つことに喜びを感じる優しい心」を発揮し、スキルやノウハウ、人生経験を活かして地域を充実させていきませんか。個人の登録とともに、ボランティアグループや企業、大学などの団体登録も受け付けています。

活動資金

共助の取組を継続していくためには、活動資金不足は大きな課題です。埼玉県は金融機関と協定を締結し、地域の課題解決や活性化に取り組むNPOへの支援を始めています。

「共助仕掛人」によるマッチングの例

たとえば、市街地の空き家をコミュニティカフェに活用したいNPOがあります。相談を受けた共助仕掛人が、建築士や商工団体、税理士などの専門家を組み合わせてプロジェクトを立ち上げます。

専門家のアドバイスを受けることで、NPOの活動が効果的になります。また、これまで地域との関わりが薄かった専門家も、地域への関心やNPOへの理解が進み、共助の担い手が拡大します。

目次 CONTENTS

- P1 ■ 日本一の共助県を目指して
- P2 ■ 定期総会報告
 - ・会長あいさつ
 - ・役員に対する永年表彰
 - ・共助事例発表会
- P3 ■ 共助社会づくりに向けた地域の取組
 - 支援型自動販売機
- P4 ■ 会員紹介

彩の国
コミュニティ協議会
マスコット
サイコミ君



共助の取組マッチング事業

NPOや自治会、コミ協など
地域や社会の課題解決を図る共助の担い手

共助仕掛人

埼玉県・和光市・
熊谷市・川口市



専門家

スキルや人生経験を
活かして社会貢献したい人
※随時募集中

活動資金

助成金・寄附・融資 など

フェイスブック『Saitama 共助 Style』で発信

共助の「いいね！」情報を随時紹介。

saitama 共助 検索



『Saitama 共助 Style』

<https://www.facebook.com/saitama.kyojo.style>

NPO・共助に関する情報が満載のホームページ

県内NPO法人の情報は「コバトンびん」で検索できます。

コバトンびん 検索

埼玉県NPO情報ステーション

埼玉県NPO情報ステーション『NPOコバトンびん』

埼玉県NPO情報ステーション『NPOコバトンびん』

<http://www.saitamaken-npo.net/>

ご連絡先はこちらまで

埼玉県 県民生活部 共助社会づくり課

Tel. 048-830-2828

Fax. 048-830-4751

E-mail a2835-03@pref.saitama.lg.jp

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂3-15-1 (第三庁舎3階)

◆ 会長あいさつ

会員の皆様には、日頃から地域の特性を生かしたコミュニティづくりに取り組み、地域社会を支えてくださっていることに心から敬意を表します。

アメリカのケネディ元大統領は、「最も尊敬する日本人の政治家」として米沢藩主であった上杉鷹山の名を挙げています。1960年代、アメリカの高度経済成長期にケネディは、「これからは共助が大事」だと強調しました。その「共助」を最も実践していたのが上杉鷹山だったのです。

埼玉県は高度経済成長期に人口が急増し、地域社会の変化や核家族化といった問題に直面しました。私は、地域のつながりが弱くなった現在の社会にこそ、「共助」が重要であると考え、日本一の共助県づくりを進めています。

例えば、元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を助け、謝礼を地域商品券で受け取る「地域支え合いの仕組み」は、現在48の市町で行われています。地域の人々が支え合うこの仕組みは地元経済の活性化にも役立っています。

また、文部科学省の全国学力・学習状況調査を基に分析した「いい子どもが育つ都道府県ランキング」で、埼玉県は19年度の16位から昨年度は4位と順位を上げています。私は地域ぐるみでの防犯パトロールなど「地域の力」による数多くの取組が子供たちに良い影響を及ぼしたからではないかと考えています。

こうした成果は、コミュニティ協議会会員の皆様の活動の賜物です。皆様には今後とも良好なコミュニティづくりのため御尽力を賜りますようお願い申し上げます。



彩の国コミュニティ協議会会長
埼玉県知事 上田 清司

◆ 役員に対する永年表彰

コミュニティ協議会の役員として20年以上にわたり尽力された方々に対する永年表彰を行いました。

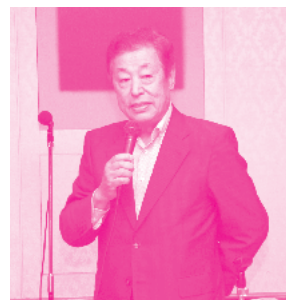
◆ 共助事例発表会

住民が安心して暮らせる地域づくりを目指して活動する「鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会」の柴崎会長をお招きし、御講演をいただきました。

新しい地域 支え合いのカタチ

特定非営利活動法人
鶴ヶ島第二小学校区
地域支え合い協議会

会長 柴崎光生氏



活動のきっかけ

鶴ヶ島第二小学校区には10の自治会があります。ある時、市の防災訓練に参加するとテントが並び、救急車や消防車、ヘリコプターまでが登場しました。実際に災害が起これば、こうした完璧な状況は難しいでしょう。また避難所はいずれも学校です。災害時、市の職員が来られないかも知れない中で、誰が避難してくる人々の整理をするのか、いざという時に避難所がきちんと機能しなければならないと感じ、平成20年3月に避難所運営委員会を立ち上げました。

運営委員会では、自治会ごとにどの教室に集まるのかを決めることから活動を始めました。この自治会単位で支え合うという形が、後の支え合い協議会の源流になりました。協議会は現在、地域防災をはじめ、福祉、子供、ボランティア、施設管理の5つの分野の活動を行っています。

活動のポイント

事業が成功している理由として、学校との連携があげられます。県内の学校のほとんどは校内だけで防災訓練を行っていますが、こうした訓練は地域ぐるみで行う必要があります。また、民生委員の協力も大きなポイントで、市との連携の核になり避難所の運営を行ってくれました。最後に、自治会長のOBが避難所運営委員として活動してくれたことがあげられます。協議会、学校、民生委員、自治会長、行政の5つで発足したことがキーポイントになったのだと思います。

地域の活動を支えるのは地域に暮らすすべての人々であり、NPOや企業など様々な団体が参加する仕組みづくりが必要です。行政に頼るばかりではなく、住民が主体的に動き、行政を動かしていくという熱い思いで支え合い協議会は活動しています。

共助社会づくりに向けた地域の取組

～三郷市コミュニティ協議会～

東日本大震災以降、地域の「絆」や「つながり」の大切さが改めて認識され、地域社会が本来持っている助け合いの再生が強く求められています。

彩の国コミュニティ協議会では、今年度、市町村協議会が行う共助社会づくりの5事業に対して優先的に支援を行っています。その中から三郷市コミュニティ協議会が実施した「一日体験キャンプ」について御紹介します。



開会式の様子

一日体験キャンプ

平成26年8月30日(土)から31日(日)にかけて、小学3～6年生を対象とした「一日体験キャンプ」を実施しました。このキャンプは、災害にどのように備えるか、発生時にどう対応するかを子供たちへ伝えることを目的としています。ボーイスカウト団員や県立みさと公園周辺町会の協力を得て実施されました。

1日目は、参加した26名の子供たちが4つのグループに分かれ、テント張りや非常用炊き出し、夜間の避難を想定したハイキングなどを行いました。最初は、初対面の人ばかりで戸惑いを見せていた子供たちでしたが、開会式で行ったチーム対抗のゲームを通して、すぐに仲良くなりました。「仮設避難所」としてその日宿泊するテントも、ボーイスカウトの方々に教わりながら自分たちで設営しました。夕食の非常用炊き出し



テント張りの様子



カレーも美味しくできたよ!

では、災害時に水が使えない状況を想定し、「災害救助用炊飯袋」を使って炊いたご飯でカレーライスを作りました。この体験は、通常のキャンプとは違う貴重な経験となりました。2日目の閉会式では、子ども防災講座認定書・防災係証明書が参加者に授与され、子供たちには家庭の防災係としての自覚が生まれた様子でした。

子供たちに指導を行ったボーイスカウト三郷1団の黒澤岳博さんは、「閉会式の際、子供たちから防災に関する意識が身についたという言葉が聞くことができたのが大きな収穫でした」と感想を述べました。

「コミュニティ活動支援型自動販売機」を御存じですか？

この自動販売機は、飲み物を買うことで県内各地で行われるコミュニティ活動への寄附につながるものです。現在、県民活動総合センターに3台、ふじみ野市立市民交流プラザに1台、武蔵野銀行に1台の計5台設置されています。

自動販売機を設置すると飲料水メーカーから売上に応じた設置料が設置者に支払われます。支援型自動販売機は、設置者と当協議会が覚書を締結し、設置料の一部を寄附いただくものです。設置者に設置費用の負担はありません。

新しく設置を考えている方や、入替えを検討されている方がいらっしゃいましたら、下記まで御連絡ください。

(お問い合わせ:当協議会事務局 TEL 048-830-2819)





NEW

生活協同組合パルシステム埼玉

パルシステム埼玉は、「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」を理念に、互いに支え合って安心して暮らせる埼玉を目指して、地域に密着した地産地消、環境に配慮した環境保全型農業の推進など、「食」と「農」を通じて生協ならではの暮らしに役立つ事業や活動に取り組んでいます。

現在行っている社会貢献活動として、地域に根ざした活動に取り組むNPOや市民団体を応援する助成金制度(市民活動支援金)や、地域の方の暮らしの安全安心を支える見守り活動などを行っています。

また、10月から11月にかけて、埼玉県内の配送センターにて、組合員や地域の方々へ日頃の感謝の気持ちを込めて青空市を開催します。各センターでは産直産地の農産物や加工品の販売や試食など、皆さんに喜んでいただけるような企画をご用意しています。ぜひお近くの青空市に足をお運びください。



青空市の様子

生活協同組合パルシステム埼玉 URL

<http://www.palsystem-saitama.coop/>

2014年度 青空市開催日時(いずれも10:00~13:00)

10月25日(土) 東松山センター	11月 1日(土) 入間センター	11月 8日(土) 草加センター
11月 8日(土) 蕨センター	11月15日(土) 白岡センター	11月22日(土) 三芳センター
11月29日(土) 大宮センター		※会場は所沢航空記念公園

西武鉄道株式会社

西武グループは、「地域・社会の発展、環境の保全に貢献し、安全で快適なサービスを提供し、お客さまの新たな感動の創造に誇りと責任を持って挑戦」というグループ理念を掲げています。

西武鉄道では、秩父地方活性化の一環として、秩父市・羊山公園「芝桜の丘」への旅客誘致を地域団体と共に展開しています。芝桜の見頃となるゴールデンウィーク前後には臨時電車、臨時特急を増発し、毎年賑わいを見せています。また、曼珠沙華の群生地である日高市・高麗の里「巾着田」についても同様に協力しています。

また西武グループでは、埼玉県の三大プロジェクトの一つ「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」の趣旨に賛同し、同プロジェクトに協力しています。ウーマノミクスプロジェクトのラッピングを施した「ウーマノミクス・トレイン」を西武鉄道池袋線で11月下旬頃まで運行しています。車両には、アニメ「アタックNo.1」の主人公鮎原こずえの大人になった姿が描かれ、いきい

きと輝く女性を応援しています。

西武鉄道は、人に優しい鉄道を目指して、安心輸送はもちろん、お客さまのニーズを的確にとらえたサービスの提供に努めています。



ウーマノミクスプロジェクトのラッピング電車

西武鉄道(株) URL

<http://www.seibu-group.co.jp/railways/>

お詫びと訂正 2014年3月発行の「広げようコミュニティの輪」第42号(2ページ『共助社会づくりに向けた地域の取組』)において、行田市コミュニティ協議会の写真説明を「コミュニティサロンの様子」と記載しましたが、正しくは「ワークショップの様子」の誤りでした。関係者の皆様に御迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、訂正させていただきます。